

まちづくりシンポジウム
～中央公園プロムナードの未来を考える～の開催結果

まちづくりシンポジウム ～中央公園プロムナードの未来を考える～の開催結果

■開催概要

- 日 時：令和6年11月16日（土）15：00～17：30
- 場 所：千葉市役所 1 階正庁
- 参加者：約 9 0 名

ひと中心の都市空間へ

千葉都心の「まちの顔」である中央公園プロムナードにスポットを当て、公共空間の利活用やウォーカブルな取り組みに活躍されている方々と市長とともに中央公園プロムナードのこれまでと未来について語る。



第1部 基調講演

歩いて楽しい街
～千葉都心の再生にむけて～



北原 理雄
千葉大学名誉教授

モデレーター



松浦 健治郎
千葉大学大学院
工学研究科建築学コース
准教授

パネリスト



山中 佑太
広島都心会議
シニアフェロー
一般社団法人エリア
マネジメントラボ理事



大藪 善久
株式会社 SOCI
代表取締役



古屋 秀
京葉銀行
法人営業部
地域振興担当部長



神谷 俊一
千葉市長

まちづくりシンポジウム

～中央公園プロムナードの未来を考える～の開催結果

第1部：基調講演 「歩いて楽しい街～千葉都心の再生に向けて～」



北原 理雄 氏（千葉大学名誉教授）

- ・ 2000年から中央公園プロムナードで開催しているパラソルギャラリーについて、市民がつくるパラソルギャラリーとなるまでの取組みの歴史や、パラソルギャラリーを始めるきっかけとなったコペンハーゲン・ストロイエの道路の歩行者空間化の取組みを中心に他都市での事例を紹介。
- ・ また、千葉のメインストリートとしての中央公園プロムナードのこれからについて必要な視点を提起。

第2部：パネルディスカッション・話題提供

山中佑太氏（広島都心会議）
メインストリート起点の都心再生



- ・ カミハチキテル（エリマネ団体）と広島都心会議の取組みを通じた、広島でのまちづくりを紹介。
- ・ 民間主導でのビジョンづくりとスモールステップで積み上げていく民主導の官民連携のまちづくりを紹介。

古屋秀氏（京葉銀行）
「CHIBA SDGs Parklet Project」を中心とした
中央公園プロムナードでのこれまでの取組み



- ・ 沿道企業として行っている中央公園プロムナードでの取組みを紹介。
- ・ 賑わいづくりとフードロス問題の解決のための「CHIBA SDGs Parklet Project」や中プロの道路上に設置したパレットテラスを紹介。

大藪善久氏（株式会社SOCI）
中央公園プロムナードの未来を考える



- ・ “多様な人々の出会い、交流の場を提供する”というウォークブルの視点から、姫路市、沼津市、千葉公園通りの事例を紹介。
- ・ 各地で実施したパブリックスペースをまちにひらく参加型の取組みを紹介。

松浦健治郎氏（千葉大学大学院准教授）
千葉市の顔としての中央公園プロムナードのリデザイン



- ・ 千葉大学、建築学コースの都市デザインスタジオでの研究を紹介。
- ・ 中央公園プロムナードのリデザインとして、沿道建物の分析や、市民が望むパークレットの方向性についてとりまとめを報告。

まちづくりシンポジウム

～中央公園プロムナードの未来を考える～の開催結果

第2部：クロストーク「中央公園プロムナードの未来」のまとめ

向かうべき未来、将来ビジョンをすり合わせながら共有していくことの重要性

■向かうべき未来、ビジョンのすり合わせと共有を図る

行政だけではなく、中央公園プロムナードに関わる様々な人とビジョンを共有し、まちづくりを進める。

■多様な主体を巻き込んだ小さな取組みを重ねて共有・改善をしていき、ビジョンを完成させていく

中央公園プロムナードをどんな場所にしていくか、メッセージを伝えることは重要。そのためには社会実験などの小さな取組を重ねて、市民などの様々な人を巻き込んでいく。

オール千葉で行う体制づくり・プラットフォームの必要性

■中央公園プロムナードの可能性を広げるオール千葉で行う取組みへ

周辺エリアの関係者だけではなく、様々なプレイヤーを巻き込んでいく取組みや体制づくりが必要。

■官・民・学など主要な主体が積極的に連携するプラットフォーム

多様な主体が連携し、まちづくりを継続して進めていくための議論ができるプラットフォームが必要。

千葉のメインストリートとして、時代に合わせた柔軟な変化が必要

■中央公園プロムナードの可能性を広げるための変化が必要

現在の潮流やまちづくりの流れに応じて、エリアの発展を支えるインフラとして、その可能性を広げる様々な視点が必要。

■通過する場所から目的地となるような場所へ

単に通過するだけの通りではなく、緑が溢れ、居心地が良く、滞在したくなる公園のような通りが理想。

そのための環境の整備としてのハード整備とそれを活かすソフトな取組みを時間をかけて行っていく。

まちづくりシンポジウム

～中央公園プロムナードの未来を考える～の開催結果

1. ひと中心の再編

- ひと中心のまちなかの形成に向けて、ソフト的な取り組み（社会実験など）に加え、ハードとしても道路のあり方について議論していきたい。
- その際には、千葉市における中央公園プロムナードとして、どのような構造、空間が良いのか、再編を含めて検討する。

2. 中プロ・デザインラボ（仮）の設立

- 行政だけではなく、関係者、有識者、まちづくりに関心のある人など、多様な人が議論できる場として、デザインラボ（仮）を設立する。
- 中央公園プロムナードだけではなく、中央公園や通町公園、千葉銀座や富士見町などエリアとしてのまちづくりについて議論をしていきたい。

中央公園プロムナード の未来に向け

- ひと中心の再編を進めます。
- 中プロ・デザインラボ（仮）
を設立します。

